

WIRELESS JAPAN 2013

モバイル新市場創造へ 技術&ソリューション集合

5月29日～31日、東京ビッグサイトでモバイル/ワイヤレス分野の専門イベント「ワイヤレスジャパン2013」(主催:リックテレコム、企画・運営:日本イージェイケイ)が開催された。第18回目を迎える今年は市場の変化に対応し5つのEXPOで構成される新しい展開となり、「ワイヤレス・テクノロジー・パーク2013」と「運送システムEXPO」も併催され、来場者は3日間で4万5003人に上った(併催を含む)。



展示会&コンファレンスレポート

クラウド、LTE軸に専門性高まる

今年は「スマホ、クラウド、LTE」をキーワードに5つのテーマ別EXPOで構成される新しいスタイルで展示が行われた。各テーマごとに従来よりもより専門性の高い展示内容となった。

文◎村上麻里子(本誌)

今年で18回目を迎えたワイヤレスジャパンは、初の試みとして「スマートデバイス/モバイルクラウドEXPO」「LTE-Advanced EXPO」「近距離ワイヤレスEXPO」「M2M/ビッグデータEXPO」「スマートフォン/ケータイショップEXPO」という5つのテーマ別に展示が行われた。

まず、スマートデバイス/モバイルクラウドEXPOには、スマートフォンやタブレット、クラウドサービスに関係する企業が集まり、最新のテクノロジーとソリューションを出展した。

なかでも賑わいを見せていたのが、Mozilla Japanのブースだ。同団体が推進するFirefox OSは「第3のOS」として注目されており、国内ではKDDIから発売を予定している。スペインGeekphone製の開発者向け端末「Keon」「Peak」や「ZTE Open」「Alcatel One Touch Fire」など実機が展示され、ニュースなど

の対応アプリや日本語入力を初めて体験できるとあって、行列が途切れることがなかった。

インターネットイニシアティブ(IIJ)は広いスペースを使い、スマートデバイス関連ソリューション、ワイヤレスM2Mソリューション、MVNOビジネスパートナーとの取り組みという3つのテーマでソリューションを紹介した。

スマートデバイス関連ソリューションでは、クラウド型マネージドサービス「IIJ Smart Mobile Managerサービス」、ビジネス向け高機能ブラウザ「IIJ Smart Mobile Managerサービス/セキュアブラウザ」、またパートナー企業によるM2Mソリューションとして、ダイドードリンコのデジタルサイネージ付き自動販売機が展示されていた。この自販機は、災害時の緊急情報や地域コミュニティ向けの情報発信といった用途を想定しており、すでに全国約100カ所に

設置されているという。

韓国Ui2のブースでは、円谷プロダクションと共同で開発したウルトラマンのNFCアプリ「ULTRA WALLET(仮称)」の試作品が目をつけた。NFC対応スマートフォン向けのアプリで、クレジットカードや交通系カードなどのアプリを格納できる。おサイフケータイ利用者は30～50代男性が中心だが、この年代はウルトラマンのファンともかぶるだけに、訴求力が期待できそうだ。

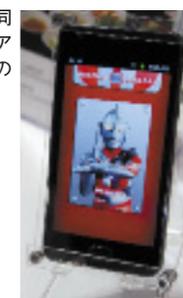
中小企業向けモバイル活用も

東京商工会議所などによる「中小企業モバイル活用フォーラム」には、NTTドコモやKDDIも出展した。

ドコモは、Androidスマートフォンを決済端末として利用できるクレジットカード決済システム「Anywhere」を展示。スマートフォンにアプリをインストールし、クレジットカードの種類や金額、支払い回数を入力した上で、リーダーにカードを通すだけで手続きが完了する。Bluetoothで通信するワイヤレス型のカードリー



Ui2は、円谷プロダクションと共同で開発したウルトラマンのNFCアプリ「ULTRA WALLET(仮称)」の試作品を紹介



Firefox OS搭載スマートフォンは日本語入力にも対応



NTTドコモは「中小企業モバイル活用フォーラム」にクレジットカード決済システム「Anywhere」などを出展

ダー兼レシートプリンターは、屋外イベントで活用されている。

KDDIは、5月下旬に発売されたWindows 8タブレット「HP ElitePad 900 for au」を展示した。同社はiPadも取り扱っているが、タブレットを電子カタログとしてだけでなく、PCとしても利用したい企業ユーザーにWindows 8を訴求していく考えだ。

アンテナの実物も展示

LTE-Advanced EXPOは、基地局やネットワーク関連企業が顔を揃えた。

日本電業工作は、LTEモバイル、ワイヤレスネットワーク、ワイヤレス給電の3つのゾーンに分けて最新ワイヤレス技術を紹介した。

LTEモバイルゾーンでは、国内で初めてLTE基地局装置との接続試験に成功した「アクティブアンテナシステム」をはじめとするアンテナ・フィルタ製品を出展。ワイヤレスネットワークに関しては、約60m離れた情報通信研究機構(NICT)のブースとのリアルタイム無線伝送デモも実施した。また、ワイヤレス給電ゾーンでは、微小電力～大電力まで豊富なラインナップを披露。災害対策で注目を集めている長距離無線LANシステムも

実戦的効果で注目を集めた。

電気興業は、移動通信用基地局アンテナの周波数帯増加に対応する多周波共用アンテナやLTE-Advancedアンテナシステム、消防・防災無線システム、スマートフォン向け放送局「NOTTV」の放送設備などを出展した。次世代移動通信用3.5GHz帯偏波共用アンテナなどの実物も多く展示され、来場者が興味深げに手を触れたり眺めている姿が見られた。

近距離ワイヤレスEXPOおよびM2M/ビッグデータEXPOには、NICTやNEC、OKIなどが参加するWi-SUN Alliance、ZigBee Alliance/SIGジャパン、ノルディックセミコンダクターなどが出展した。

このうちZigBee Alliance/SIGジャパンのブースでは、ECHONET Lite/920MHz ZigBee IPの相互接続デモが行われた。ECHONET Liteは、経済産業省が認定するHEMS向け通信プロトコルの国内標準。グローバルに普及する無線/有線通信規格を柔軟に利用するため、物理層やMAC層について規定していないのがECHONET Liteの特徴であり、デモでは920MHz ZigBee IPにより相互接続している。OKIや

NECエンジニアリングなどメーカー各社の温度センサやスマートタップ、エアコンを利用し、タブレットのアプリから温度/湿度のモニタリングやエアコンの制御を行っていた。

スマホのアクセサリも多数出展

スマートフォン/ケータイショップEXPOには、携帯ショップで必要となるソフトやツールを取り扱う企業が参加した。

ブロードリーフは、携帯電話販売代理店向けの販売管理システムを各種展示。「ネコ目券機」はメール呼出、電話呼出、順番予約といった機能を備える。来店客は自分の携帯電話で順番を確認できるので、待合室の混雑緩和や待ち時間のイライラ解消などの効果があるという。

ソフトバンク系販売代理店ルートワン・パワーは、スマートフォン向け来店ポイントサービス「SMAPO(スマポ)」を紹介した。

これは、専用アプリをダウンロードし、提携店舗の指定位置でチェックインすると、商品購入の有無に関わらずポイントを貯めることができる。実際に同社が運営するソフトバンクショップで導入されており、集客費用を抑えて新規顧客の獲得につ

ながるとともに、より正確な来店分析が可能だという。

このほか、ユニークなスマートフォン周辺機器も多数展示された。FOXは、防水・防塵・耐衝撃に対応したスマートフォンケース「LIFEPROF」シリーズの新作を出展。水槽に沈めた状態でカメラを撮影したり音楽を聞けることを実演し、来場者の関心を集めていた。

NTTBPが第3のアクセスを講演

コンファレンスは、3日間で68のセッションおよびパネルディスカッションが行われた。

初日の基調講演は「モバイルテクノロジー&ビジネスコンファレンス2013」と題し、NTTブロードバンドプラットフォーム(NTTBP)の小林忠男社長が、「NTTグループの推進する“第3のアクセス”WiFiプラットフォーム戦略」というテーマで講演した。

NTTグループでは公衆無線LANサービスを固定、移動に次ぐ3番目のアクセスと位置づけ、駅や空港、コンビニで無料のインターネットサービスを提供する「WiFiプラットフォーム」を強化している。NTTBPはその整備を担っており、現在はWiFiプラットフォームを活用し、企業顧客に付加価値サービスを提供する「WiFiクラウド」事業に注力している段階だという。

WiFiクラウドの活用例として、セブン&アイ・ホールディングスの「セブンスポット」、東京メトロの「MANTA(マンタ)」などがある。さまざまな業種から問い合わせを受けており、「事業拡大に向けて業種

ごとにカスタマイズしたサービスを提供していきたい」と述べ、講演を締めくくった。

続いて、エリクソン・ジャパン、ファーウェイ・ジャパン、ノキア シーメンス ネットワークス、ZTE Corporationの主要インフラベンダー各社の代表が、モバイルネットワークの進化と自社の戦略を中心に講演した。LTE、LTE-Advancedに向けて高い関心を集めていることから、いずれの講演も会場は満杯だった。

展示会場内では、携帯販売代理店向けビジネスセミナーも開催され、野村総合研究所上席コンサルタントの北俊一氏が「スマホ時代の携帯電話販売チャンネルの在り方」と題した講演を行った。

北氏は、栃木県内のデジカメ販売シェアで15年連続トップの座にあるカメラ専門店「サトーカメラ」の取り組みを紹介し、「携帯ショップも携帯電話を売ることが目的ではない。売ってから、お客様と本当の付き合いが始まる」と語った。スマートフォンやタブレットは高度化・複雑化することから、「お客様が納得するまで説明して販売し、その端末を使いこなせるまで徹底的にサポートする必要がある。そのサポートは、店頭でもオンラインでも本気で取り組まなければ、上質な顧客体験を提供することはできない」と強調した。

続いて行われたパネルディスカッションには、販売代理店ベルパーク代表取締役社長の西川猛氏、コンサルティング会社ディー・フォー・ディー・アール代表取締役の藤元健太郎氏、家電量販店向けeラーニング会

社クロス代表取締役の得平司氏の3名が参加し、「携帯電話販売チャンネルの未来」について意見を交換した。会場には販売代理店やショップ関係者がつめかけ、立ち見も出るほどの盛況ぶりだった。

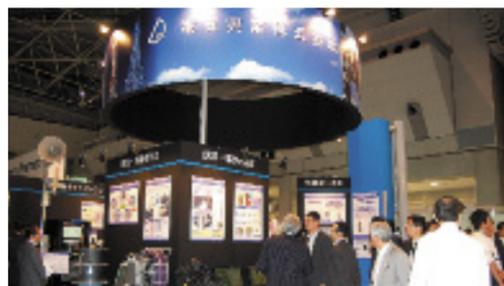
また、Mozilla Japanスペシャルセッションは、Mozilla Japanマーケティングマネージャーの小坂哲也氏とテクニカルマーケティングの浅井智也氏の2名により、Mozillaのこれまでの活動、Firefox OSの開発目的・課題解決への取り組みなどが詳しく語られた。海外では商用端末の発売が目前に迫っていることもあり、参加者は熱心に耳を傾けていた。

このほか、中小企業向けモバイル活用フォーラムが会期中、3日間にわたって開催された。中小企業のモバイル活用の普及に必要な支援、売上拡大やコスト削減につなげるスマートフォン・タブレットの活用術など実戦的なセッションが行われた。中小企業での具体的な活用方法が分かるとあって、地方からの参加者も多く、連日、盛り上がった。

携帯電話市場が大きく変貌したのを受けて、ワイヤレスジャパンもモバイル/ワイヤレスによって新たな市場や産業の創造、ビジネス活性化を牽引するモバイルテクノロジー&ビジネスプラットフォームとしての役割を果たすイベントへと生まれ変わった。併催の「ワイヤレス・テクノロジー・パーク2013」と「運送システムEXPO」との相乗効果もあり、来場者の満足度、評価も高かったことから、今後も「テクノロジー&ソリューション」の新しい方向で進んでいくという。



日本電業工作のワイヤレス給電は、微小電力～大電力までラインナップが揃う



電気興業のブースでは、本物のアンテナなども多く展示され、来場者の関心を引いていた



FOXは、防水・防塵・耐衝撃に対応したスマートフォンケース「LIFEPROF」シリーズの新作を紹介